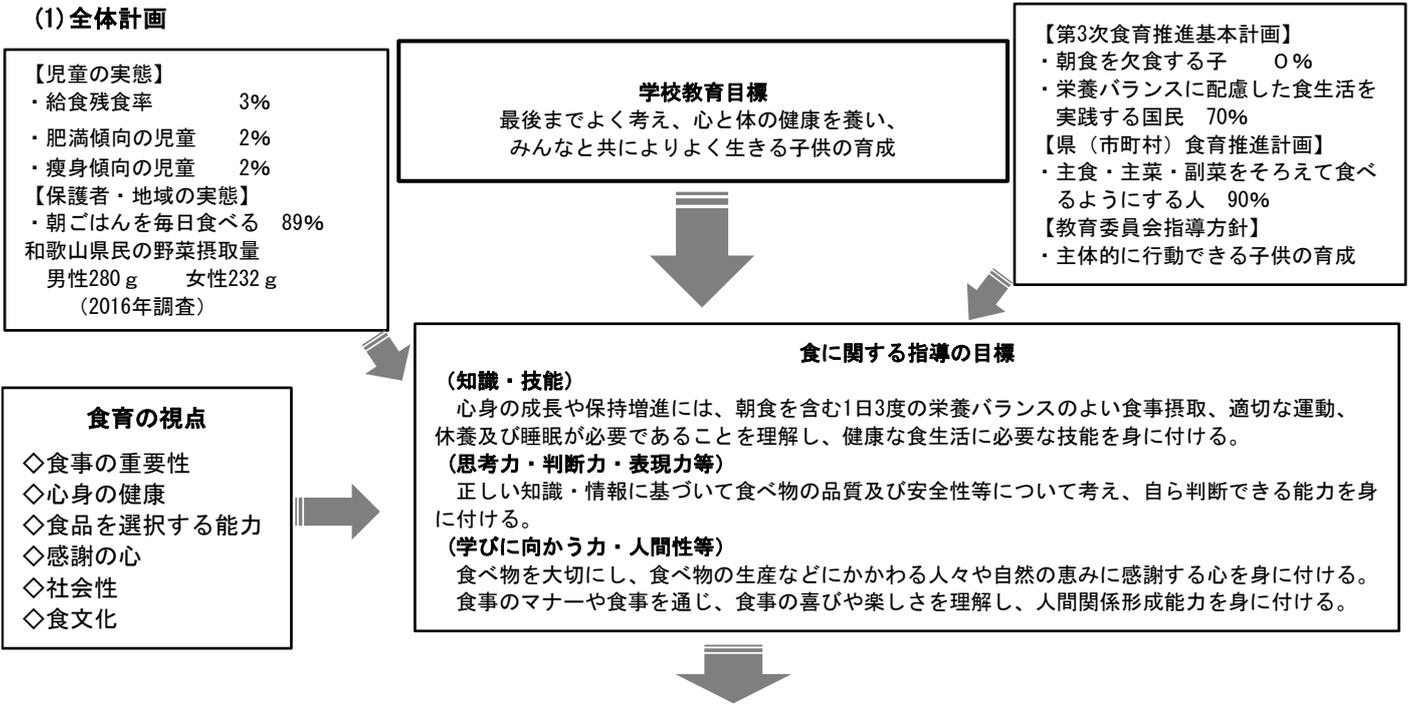


食育

(1) 全体計画



【児童の実態】
 ・給食残食率 3%
 ・肥満傾向の児童 2%
 ・痩身傾向の児童 2%
【保護者・地域の実態】
 ・朝ごはんを毎日食べる 89%
 和歌山県民の野菜摂取量
 男性280g 女性232g
 (2016年調査)

学校教育目標
 最後までよく考え、心と体の健康を養い、
 みんなと共にによりよく生きる子供の育成

【第3次食育推進基本計画】
 ・朝食を欠食する子 0%
 ・栄養バランスに配慮した食生活を
 実践する国民 70%
【県（市町村）食育推進計画】
 ・主食・主菜・副菜をそろえて食べ
 るようにする人 90%
【教育委員会指導方針】
 ・主体的に行動できる子供の育成

食育の視点

- ◇食事の重要性
- ◇心身の健康
- ◇食品を選択する能力
- ◇感謝の心
- ◇社会性
- ◇食文化

食に関する指導の目標

(知識・技能)
 心身の成長や保持増進には、朝食を含む1日3度の栄養バランスのよい食事摂取、適切な運動、
 休養及び睡眠が必要であることを理解し、健康な食生活に必要な技能を身に付ける。

(思考力・判断力・表現力等)
 正しい知識・情報に基づいて食べ物の品質及び安全性等について考え、自ら判断できる能力を身
 に付ける。

(学びに向かう力・人間性等)
 食べ物を大切にし、食べ物の生産などにかかわる人々や自然の恵みに感謝する心を身に付ける。
 食事のマナーや食事を通じ、食事の喜びや楽しさを理解し、人間関係形成能力を身に付ける。

幼稚園・保育所・幼保連 携型認定こども園	各学年の食に関する指導の目標			中学校
	1、2年	3、4年	5、6年	
教師や友達と一緒に給食を食べたり、野菜の栽培・収穫・調理等をしてもらって、食べる喜びや楽しさ、食べ物への興味・関心を通じ、自ら進んで食べようとする気持ちを育てる。さらに、食べ物を大切にすることを感謝の気持ちをもつことができるよう育む。	野菜の名前が分かる。 好き嫌いせず食べるようにする。 協力して食事の準備や後片付けができる。	健康に過ごすことを意識して、様々な食べ物を好き嫌いせず3食規則正しく食べようとするができる。 地域の伝統や気候風土と深く結び付き先人によって培われてきた多様な食文化があることがわかる。	朝食を含め3食、規則正しく食事をとること。 栄養のバランスのとれた食事の大切さがわかり残さず食べようとするができる。 日常の食事に興味・関心をもち食事にかかわる多くの人々や自然の恵みに感謝する。	一緒に食事を摂ることにより、生活を豊かにし、明るい社会性や協同の精神を養う。 1日3度の栄養バランスの摂れた食事を自ら準備、調理し、自立できるよう育む。

食育推進組織
 委員長：校長、教頭

食に関する指導

- 教科等における食に関する指導：関連する教科等において食に関する指導の視点を位置付けて指導
 社会、理科、生活、家庭、体育、道徳、総合的な学習の時間、特別活動 等
- 給食の時間における食に関する指導：
 - 食に関する指導：献立を通して学習、教科等で学習したことを確認
 - 給食指導：準備から片付けまでの一連の指導の中で習得
- 個別的な相談指導：肥満・やせ傾向、食物アレルギー・疾患、偏食、スポーツ、等

地場産物の活用
 物資選定委員会：構成委員（JA、保健給食管理課、栄養士）活動内容（年間生産調整及び流通の確認）
 地場産物等の校内放送や指導カードを使用した給食時の指導の充実、教科等の学習や体験活動と関連を図る。

家庭・地域との連携
 積極的な情報発信、関係者評価の実施、学校だより、食育（給食）だより、保健だより、学校給食試食会、
 学校保健委員会、ホームページ、生産者団体、学級運営協議会

食育推進の評価

活動指標：食に関する指導、学校給食の管理、連携・調整
 (例：食育の視点を位置付けた教科等における食に関する指導の実施、日常的な給食指導の継続的な実施など)

成果指標：児童の実態、保護者・地域の実態
 (例：朝食を「毎日食べる」と回答した割合、配膳されたものを残さず食べられた子供の割合など)